

第2 農業生産の現状と今後の方向

1 重点作目の概要

(1) 主食用米

コメ流通に関わるサプライチェーンであるJAグループをはじめ、関係機関が連携を図り、生産者や卸業者、実需者との意見交換を行うなど、業務用及び家庭用の需要を把握し、生産量の適正化を図る。

(2) 備蓄米

主食用米と一括管理できることから、小規模生産農家にも重要な位置付けとして、地域における稲作経営と水田の維持安定化を図っていく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

JAグループ等を介した飼料会社への供給ルートを生かし、本作化を推進する。フレコン・バラ出荷等の取組により流通コストを抑えて生産拡大を図るとともに、安定的な供給のため、複数年契約を推進していく。

また、飼料用米のわらを利用した耕畜連携について、国産粗飼料の需要が高まる中で、畜産の経営基盤の安定と収益性の向上を目指し、地域内等における利用供給体制を図っていく。

イ 米粉用米

小麦代替のグルテンフリーの食材としての需要や、輸入小麦の価格高騰による米粉の需要回復がみられることから、フレコン・バラ出荷等の取組により流通コストを抑え、段階的に生産拡大を推進していく。

ウ 新市場開拓用米

アジア地域等（特に台湾・香港）に和食の人気の高まっており、米の新たな需要が見込めることから、生産コスト低減と多収技術を実証しながら、販売業者等と連携した取組を検討する。また、水田リノベーション助成を呼び水とした生産拡大を図る。

エ WCS 用稲

自給飼料として有効であることから、畜産農家と耕種農家の連携強化を図り、需要を喚起しつつ生産拡大を進める。

オ 加工用米

実需者との結び付きの拡大により、需要量を確保し、計画的な生産が行われるよう安定化を図っていく。

(4) 麦、大豆

麦、大豆は需要に見合った品種の導入・転換のほか、土づくりや排水対策などの取組を推進し、収量の増加と品質の向上を図り面積拡大を目指す。

その中で、限られた水田を有効利用しながら、より多くの収益を確保するため、需要の増加が見

込まれる作物を組み合わせ、水田を高度に利用する二毛作（二期作を含む。以下同様）の取組を推進する。

（５）そば、なたね

地域活性化を担う作物であることから適期収穫や適正な乾燥調製を促し、現行の状態を維持していく。

その中で、限られた水田を有効利用しながら、より多くの収益を確保するため、需要の増加が見込まれる作物を組み合わせ、水田を高度に利用する二毛作（二期作を含む。以下同様）の取り組みを推進する。

（６）高収益作物

加工用トマト、なす、ねぎ、たまねぎ、レタス、さといも、ほうれんそう、ばれいしょ、はくさい、だいこん、スイートコーン、うど（株養成のみ）、えだまめ、キャベツ、ブロッコリー、にんじん、かんしょの１７品目を高収益作物また、いちご・トマト・ハウスなす・メロン・しゅんぎく・にら・アスパラガス・レタス・花きの９品目を地域振興作物として位置付けし、園芸の産地でもある管内において園芸作物の生産拡大と水田の畑地化による高度利用を図る。

（７）花き

北部水田地帯を中心に生産されており、広域出荷組織体制で新しい農業の姿として注目されているが、日々変化する需要の動向に対応し、今後作型の組み合わせと栽培技術の高位平準化や稲作等他部門の合理化等に努め、生産の拡大を図る。

（８）飼料作物

水田裏飼料作物の作付けを推進し、飼料作物の生産利用技術の向上や飼料コストの節減を図るとともに、畜産農家と耕種農家との連携構築やコントラクターの育成など、組織的流通体制の確立を図る。

（９）乳用牛

生産コストの低減には飼料の自給率向上が必要であるために、生産調整等による未利用農地等への飼料作物の積極的な作付けを推進し、乳用牛群検定や受精移植関連技術を活用した牛群の改良による生産性の向上に努め経営改善を図る。ふん尿処理については、たい肥化と地域内流通の促進を図る。

（１０）肉用牛

繁殖、肥育の地域内または経営内一貫体系を促進する。粗飼料の生産・利用の合理化による自給率の向上と、ふん尿処理については、たい肥化と地域内流通の促進を図る。

（１１）養豚

生産性の高い優良種豚の導入、系統保存等が行われており、今後も繁殖肥育の一貫生産経営農家

の育成を図る。また、土づくりと合わせた合理的なふん尿処理体系の確立に努める。

環境保全に留意しながら飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、近年多くの発生が確認されている疾病予防に努める。

(12) 養鶏

採卵、ブロイラーともに需要に見合った計画生産に努め、環境保全に留意しながら飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、近年多くの発生が確認されている疾病予防に努める。

2 農業生産の動向及び見通し

単位：ha、頭、百羽、t

作目	平成 27 年		令和 2 年 (現況)		令和 12 年 (見通し)	
	作付面頭 (飼養頭羽数)	生産量	作付面頭 (飼養頭羽数)	生産量	作付面頭 (飼養頭羽数)	生産量
水 稲	3,980	21,900	3,960	21,700	3,900	21,500
麦類	866	3,397	841	2771	831	2,720
(小麦)	348	1,420	354	1,220	332	1,150
(二条大麦)	386	1,500	285	927	276	883
(六条大麦)	132	477	202	624	223	688
そ ば	138	170	319	317	350	385
豆類 (大豆)	190	241	195	304	189	295
いちご	146.3	7,008	136.5	6,663	128	6,400
なし	3.1	83	3	10	3	60
メロン	3	71	2.1	61	1.5	45
なす (ハウス)	6.2	872	5.2	888	4.4	760
なす (夏秋)	20.6	1,360	14.7	1,056	10.4	750
トマト (ハウス)	15.5	1,993	13	1,722	10.1	1,350
にら	31.4	968	24.1	635	18.5	490
たまねぎ	35.5	1,546	34.2	1,905	35.4	1,970
レタス	7.5	231	6.2	129	5.1	110
春菊	3.1	125	2.7	96	2.4	86
アスパラガス	0.6	2	1.5	9	1.8	11
にんじん	1.5	10	0	0	—	—
花 き	6	28.1	4.8	37.3	2.6	16
乳 牛	1,759 頭	—	1,502 頭	—	1,282	—
豚	13,215 頭	—	3,725 頭	—	—	—
にわとり 採卵用	10	—	144	—	—	—

注) 資料：芳賀農業振興事務所（芳賀地方の農業・農村）